建造物)



・倉敷市阿知3丁目



- 江戸時代
- 指定年月日
 - ・昭和53(1978)年 1月21日
- 所有
 - 個人
- 見学

見学可 有料



新高総早 見梁社島 市市市町

矢井浅里笠 掛原口庄岡 町市市町市





けん ぞう ぶつ ☆この建造物について

大橋家は、江戸後期の倉敷において、塩田や新田の開発によって財をなした大地主で、大原家 と共に「新禄」と呼ばれる新興勢力となっていました。

住宅の屋敷構えは大原家と大きく違っています。主屋が通りに直接面しておらず、庭が隔て もん おくがわ 門の奥側にあります。

くら しき まど こめぐら うちぐら 建物は、1階に倉敷格子、2階に倉敷窓があり、米蔵・内蔵は『なまこ壁』で仕上げられていて、 美しい姿を見せています。

倉敷町屋の特徴をよく示しているとして、主屋・長屋門・米蔵・内蔵の4棟が国の指定文化財 となっています。平成3年~7年の3年4カ月をかけて、建物の保存修理工事が行われ、当時の 輝きを取り戻しました。この修理のときに見つかった資料により、寛政8(1796)年~寛政11 (1799)年にかけて主な部分が建てられ、その後、文化4(1807)年、嘉永4(1851)年の2度にわ たって大改造が行われたことがわかっています。

最も屋敷構えの整った嘉永4年の姿に復元されて公開されており、地主の繁栄ぶりを伺い知 ることができます。